産学交流会の進め方について

2019.7.26

実行委員長　松本

1. はじめに

実行委員会では、産業界と学術界とのより密接な連携を支援するため産学交流会を開催することとしている。産学交流会は、学術界からは先進的な取り組みの紹介を、また産業界からは企業や業界が抱えるシステム化の課題を提供することで、相互に課題解決に向けたヒントの提供や個別の連携につながる場の提供を目指すことを主な目的として、おおむね2か月に1回程度の頻度で開催する。

5月30日に開催した第1回の産学交流会では、学術界の複数の先生方からそれぞれの取り組みについてご紹介いただいた。8月20日に開催予定の第2回では、いくつかの産業界の会員企業から現状抱えている課題についてのご紹介を頂く予定である。

1. 議論テーマについて

産業界が抱えるシステム化の課題と言っても幅広すぎて議論が発散することが懸念されるため、それぞれの回である程度テーマを決めておく必要がある。現状第2回に向けては、

・最近特に顕著になってきた、製品提供からサービス化へのビジネスモデルのシフトに伴う課題

・システムを取り巻く環境の変化に伴うリスク（設計上のリスク、開発上のリスク、運用上のリスク等）

についていくつかの会員企業から抱える課題を提示いただく予定である。

今後のテーマについては、例えば以下が挙げられる。

　・システム思考ができる人材の育成方法

　・システムイノベーションを創出しやすい企業風土、組織構成とは

1. アンケートの実施

会員企業が抱える課題について、テーマを限定せずに全会員企業を対象にアンケートを実施して、どういった部分に課題が多く存在するかの傾向分析を実施したい。また、必要に応じてアンケート回答企業から交流会の場において具体的な説明を行っていただき、より深い議論が行えるようにする。

1. 学術協議会との連携

交流会での議論では、学術界から多くの示唆が得られるかどうかがポイントとなるため、学術協議会とは密接に連携して進めていく。

以上